

2021 年度 理論言語学講座 概要

時間:19:00-20:40(100 分)

前期 2021 年 5 月 10 日～ 全 10 回(祝祭日の講義はありません)

	<p>言語研究の全体像を知る 言語学概論</p> <p style="text-align: right;">窪菌 晴夫(くぼぞの・はるお)国立国語研究所教授 杉岡 洋子(すぎおか・ようこ)慶應義塾大学名誉教授 酒井 智宏(さかい・ともひろ)早稲田大学教授 嶋田 珠巳(しまだ・たまみ)明海大学教授 吉田 和彦(よしだ・かずひこ)京都産業大学客員教授</p> <p style="text-align: right;">【言語学概論】 オンライン</p>
月曜日	<p>講義概要</p> <p>この講義では言語研究の 5 つの主要分野について、各分野の専門家が 2 回(2 週)ずつリー形式で解説を行います。「言語学概論」はこれまで半期の課目として、一人の講師がすべての分野をカバーする形で開講されてきました。今年度は前期と後期の二期に分けて開講し、合計 20 回の講義を計 10 名の講師が分担する形で、言語研究の各分野の考え方と言語研究の面白さを解説いたします。半期だけの履修も可能ですが、言語研究の全体像を理解するためにも両期とも受講されることをお勧めします。</p> <p>今期は音声学・音韻論、形態論・語形成論、意味論・語用論、社会言語学、史的言語学の 5 分野について解説したいと思います。担当講師の多くは後期に各論の講義を担当しますので、これらの各論とペアにして受講されるとさらに各分野を深く理解することができるようになります。単位取得を希望する人は 5 名の講師が一題ずつ出すテーマから 1 つを選んでレポートを提出していただきます。</p>
	<p>テキスト・参考文献</p> <p>各講師が指定(もしくは配布)する。</p>
	<p>この科目で前提とされる知識など</p> <p>ことばに関心のある人はどなたでも受講できます。言語学を一から学びたい方、言語研究の全体像をもう一度理解したい方、大学等で言語学概論をどのように教えたらいいか模索している方に特にお勧めの授業です。</p>
	<p>プロフィール</p> <p>各講師の講義欄参照</p>
	<p>文法形式の多義の分析から文法の基本問題へ 日本語文法理論Ⅱ 日本語文法各論:受身文・ラレル文</p> <p style="text-align: right;">川村 大(かわむら・ふとし) 東京外国語大学教授</p> <p style="text-align: right;">【日本語文法理論】 オンライン</p>
	<p>講義概要</p> <p>個別の文法形式についてやや深く掘り下げて考えることで、文法研究の様々な面白さに出会ってまいります。今回は、「動詞+レル・ラレル、ル・ラレル等」の形(以下、「動詞ラレル形」とその周辺諸形式をとりあげます。動詞ラレル形は「受身・自発・可能」などの意味を表す多義形式ですが、それだけでなく、表す意味ごとに格表示の様式が多様です。この、意味と格表示の両面にわたる複雑さをどう理解したらよいのでしょうか。この問題を追究することで、いわゆる「受身文」の規定そのものを再考したり、さらには日本語研究における「ヴォイス」概念の再検</p>

月曜日		<p>討を行うなど、幾つかの指摘を行なう予定です。日本語を専攻する人だけでなく、他動性、ウォイスといったことに関心のある他言語専攻の人にとっても興味を持てる内容になると思います。現代語だけでなく、古典語の例も少なからず挙げますが、知識が無くてもついていける内容にします。</p>
テキスト・参考文献		<p>テキスト:教科書は使用せず、ハンドアウトを配布します。 参考文献:川村大『ラ形述語文の研究』(くろしお出版、2012)、「動詞のラ形——受身・自発・可能——」尾上圭介編『講座 言語研究の革新と継承 7 日本語文法Ⅱ』(ひつじ書房、近刊)等。</p>
この科目で前提とされる知識など		<p>日本語学・言語学の入門程度の知識が必要です。古文の知識があると理解が深まりますが、必ずしも前提としません。</p>
プロフィール		<p>東京外国語大学大学院教授 国語学(文法、文法論、日本語史)。 1990年東京大学大学院人文科学研究科修士課程修了。博士(文学)。『ラ形述語文の研究』(くろしお出版、2012)、「動詞ラ形述語文と無意志自動詞述語文との連続・不連続について」(『国語と国文学』89巻11号、2012)「ラ形述語文における自発と可能——古代語からわかること——」(『日本語学』32巻12号、2013)など。</p>
火曜日		<p>広範囲な言語音を聞き分け発音し分け記述する訓練をする 調音音声学</p> <p style="text-align: right;">中川裕(なかがわ・ひろし) 東京外国語大学教授 【音声学】 オンライン</p>
火曜日		<p>講義概要</p> <p>この授業では、調音音声学的の実習をしながら、音声学の基礎を身につけることを目指します。実習では、IPA (International Phonetic Alphabet)の枠組みをもとにして、世界の言語で音素的な区別に用いられている多様な単音の(1)聞き分け、(2)発音模倣、(3)発音の内省、(4)正確な表記、といった技能訓練をします。さらに、IPA で使われている用語と、伝統的な音類用語と、音韻論で使われている音韻素性の用語との対応をわかりやすく解説をすることで、音声学と音韻論の橋渡しをします。</p> <p>実習と解説では、主に、分節音(子音と母音)を対象とします。最初に肺臓気流による子音、次に母音、最後に非肺臓気流による子音という順序で技能訓練を進めます。この訓練の過程で、IPA が設定している気流、発声、調音点、調音法、母音区別、また、それらの可能な組み合わせの重要なものをほぼ網羅します。</p> <p>この授業を通して得た音声学的の知識と技能は、音声学・音韻論的な記述を正確に読解するためにも、言語音の歴史的な変化についてよりよく理解するためにも、言語の現地調査を実施するためにも、言語の発音教育などの応用的研究に取り組むためにも、不可欠な基盤となります。</p>
テキスト・参考文献		<p>適宜プリントを配ります。</p>
この課目で前提とされる		<p>特にありません。</p>

	る知識など	
	プロフィール	東京外国語大学総合国際学研究院教授;PhD (Linguistics) 音声学、音韻論、音韻類型論、コイサン言語学。 主要業績は下記のページをご覧ください。 <a href="https://researchmap.jp/read0158227/">https://researchmap.jp/read0158227/</a>
	『「する」と「なる」の言語学』とその周辺 — 共時的にも通時的にも 認知言語学Ⅱ	池上 嘉彦(いけがみ・よしひこ) 東京大学名誉教授 【認知言語学】 【認知言語学】内容は通年講座を参照。
	言語獲得と言語理解のおもしろさに迫る 言語心理学入門	大津 由紀雄(おおつ・ゆきお) 関西大学客員教授 【言語心理学】 対面+オンライン
水曜日	講義概要	認知科学の一分野としての言語心理学へ誘うことを目的とした講義です。言語心理学の全体像について解説した後、言語獲得と言語理解について、その意義、研究方法、これまでの研究成果、研究の現状、今後の課題などについて、できるだけわかりやすく説明します。毎回、講義後に「講義メモ」を配布します。また、進んだ探求を求める受講者のためには関連論文を配布します。 言語獲得について:まわりの人たちが話すことばを模倣し、ときに、間違いを指摘されながら、母語を身につけていくイメージだけで子どもの言語獲得を捉えていると、大切な本質を見逃してしまうこととなります。この機会に、言語獲得の奥深さを実感してみませんか。 言語理解について:「たけしからプレゼントをもらった静香からプレゼントをもらった和也からプレゼントをもらった泰子からプレゼントをもらった道雄からプレゼントをもらったたけし」はやたらと長い表現ですが、みんなが幸せになったことはすぐわかります。でも、「坊主が屏風に坊主が屏風に描いた坊主が屏風に描いた坊主が屏風に描いた坊主を描いた」と耳にしたら、どんな状況が思い描けますか。そこで、言語理解の仕組みを探ってみましょう。
	テキスト・参考文献	上記文献を含め、必要に応じて配布する。
	この課目で前提とされる知識など	生成文法、言語心理学の予備知識は必要としません。

	プロフィール	<p>関西大学客員教授、慶應義塾大学名誉教授。</p> <p>一貫した関心は認知科学としての言語心理学にあります。その研究成果をもとに言語教育の在り方を考えることも重要なことだと認識しています。日本認知科学会フェロー。言語の認知科学(生成文法、言語心理学)、多言語能力を基盤とする言語教育。Ph.D.(MIT)。今西典子・大津由紀雄。2017.「時間表現の発達——時間の言語化にみられる普遍性と多様性の観点からの考察」<i>Brain and Nerve</i> 69(11) 1251-1271、大津由紀雄。2016.「ことばについて知ることの大切さ」『日本語学』35(2) 2-12、大津由紀雄。2015.「ことばの認知科学」<i>Clinical Neuroscience</i> 38(3) 877-881 など。</p>
水曜日	世界の言語の多様性と共通性を知る 言語類型論	<p style="text-align: right;">長屋 尚典 (ながや・なおのり) 東京大学准教授 【言語学特殊講義】 オンライン</p>
	講義概要	<p>世界には 6000 を超える言語が存在しますが、その構造は言語ごとに大きく異なります。たとえば、「シゲが(S)リウマを(O)殴った(V)」という内容を伝えるために、日本語のように SOV 語順をとる言語もあれば、英語のように SVO 語順をとる言語もあります。さらに VSO、VOS、OSV、OVS といった語順も存在します。ばらばらです。しかし、完全に不規則というわけでもありません。実は SOV 言語と SVO 言語だけで世界の言語の 80%以上を占めており、人間の言語に「S が O に先行する」「V と O が隣接する」という傾向があることが分かります。この講義では、このような、世界の言語を幅広く観察することによって初めて観察できる言語の特徴に注目し、言語類型論と呼ばれる学問分野を紹介します。その前提として世界の語族や人類の歴史も俯瞰します。日本語と英語を比べているだけでは分からない言葉の世界をみなさんと一緒にのぞいてみたいと思います。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 言語類型と言語普遍性</li> <li>2. 人類の歴史と世界の語族</li> <li>3. Standard Average European</li> <li>4. 語順のタイポロジー</li> <li>5. 形態構造のタイポロジー</li> <li>6. アラインメントのタイポロジー</li> <li>7. ウォイスのタイポロジー</li> <li>8. テンス・アスペクトのタイポロジー</li> <li>9. 色彩語のタイポロジー</li> <li>10. 空間参照枠のタイポロジー</li> </ol>
	テキスト・参考文献	<p>教科書は使用せず、ハンドアウトを配布します。参考文献は授業内で随時紹介します。</p>
	この課目で前提とされる知識など	<p>入門・概論レベルの言語学の知識を前提とします。日本語や英語以外の言語の例をたくさん見ることになるので、それと根気よく向き合う気力が必要です。</p>
	プロフィール	<p>東京大学大学院人文社会系研究科 准教授。 PhD in Linguistics (Rice University, 2011)</p>

	<p>オーストロネシア諸語、フィリピン言語学、言語類型論。</p> <p>主要著作・論文:「意図と知識—タガログ語の ma-動詞の分析—」(2019,『認知言語学を拓く』), “The thematic/categorical distinction in Tagalog revisited: A contrastive perspective” (2019, 『言語研究』), “Focus and prosody in Tagalog”(2018, Hyun Kyung Hwang との共著, <i>Perspectives on Information Structure in Austronesian languages</i>)</p> <p><a href="https://sites.google.com/site/naonorinagaya/">https://sites.google.com/site/naonorinagaya/</a></p>
木曜日	<p>生成文法理論を通して言語を考える</p> <p>生成文法 I 高橋 将一(たかはし・しょういち)青山学院大学教授【生成文法 I】</p> <p>内容は通年講座を参照。</p>
	<p>文とは何か:意味の単位か言語活動の単位か</p> <p>日本語文法理論 尾上 圭介(おのえ・けいすけ 東京大学名誉教授【日本語文法理論】)</p> <p>内容は通年講座を参照。</p>
	<p>60 年余に及ぶ生成統語論の歴史から科学としての言語学の方法を学ぶ</p> <p>生成文法 II 極小主義アプローチの背景と展開</p> <p style="text-align: right;">斎藤 衛 (さいとう・まもる) 南山大学教授 【生成文法】 オンライン</p>
金曜日	<p><b>講義概要</b></p> <p>60 年余に及ぶ歴史の中で、生成文法は、Chomsky 氏の研究を中心にめざましい発展を遂げてきました。初期においては、規則の体系としての文法を、句構造規則、移動規則、省略規則の正確な定式化を通して精密化する作業が進められます。この研究は、文法規則の性質の説明という新たな研究課題を提示し、1970～1980 年代には、文法規則あるいは文法規則が表す一般化を研究対象として、普遍的な原理群と言語間変異を説明するパラメータによって構成される理論が整備されます。Chomsky 氏の <i>Knowledge of Language</i> (1986) に端を発する極小主義アプローチは、この理論をさらに発展させ、言語が言語として成立するために最低限必要なメカニズムにより、原理群によって説明されてきた現象を捉え直そうとする試みです。</p> <p>本講義では、この歴史を概観して、現在追求されている極小主義アプローチの背景と現時点での成果について説明しつつ、言語研究の方法について考えます。また、後半では、日英語比較を中心に据えて、極度に単純化された理論の下でどのように言語間変異を捉えることができるのかを検討します。</p>
	<p><b>テキスト・参考文献</b></p> <p>適宜、講義資料を配布します。また、参考文献は、講義の中で紹介していきます。</p>
	<p><b>この課目で前提とされる知識など</b></p> <p>言語学入門、統語論入門程度の知識を前提とします。極小主義アプローチや原理とパラメータの理論に関する予備知識は、必要ありません。</p>
	<p><b>プロフィール</b></p> <p>南山大学国際教養学部国際教養学科教授</p> <p>専門は、比較統語論、統語理論。1979 年スタンフォード大学哲学科卒業。1985 年 MIT 言語学博士課程修了。句構造、移動、省略など、多くの現象について研究を重ね、統語論に関する仮説を提示してきた。主要著書には、<i>Move a</i> (H. Lasnik と共著, 1992, MIT Press)、<i>The Free</i></p>

	<p><i>Word Order Phenomenon</i> (J. Sabel と共編著, 2005, Mouton de Gruyter), <i>Japanese Syntax in Comparative Perspective</i> (編著, 2014, Oxford University Press) などがある。</p>
<p>単語のカタと、そこに潜んでいるイを探る 形態論と意味</p>	<p style="text-align: right;">松本 曜(まつもと・よう) 国立国語研究所教授 【形態論】 オンライン</p>
<p>講義概要</p>	<p>本講義では、形態論と呼ばれる研究分野を、意味論との関連で講義します。形態論とは、語の内部構造について研究する分野です。語には、派生語(<i>kindness</i> など)、複合語(「男泣き」など)など、複数の要素が含まれるものがありますが、そのような語の構造と意味について考察する分野です。まず、形態論に関する基本的な概念(形態素の種類、語形成の種類、生産性など)について理解を深めた後、オランダの言語学者 Booij らが提唱するコンストラクション形態論と呼ばれる理論について紹介します。さらに、それに基づいて日本語・英語のいくつかの種類(派生語・複合語など)を取り上げ、その語構成の形式的特性と意味的特性について分析していきます。具体的に取り上げるのは、英語の名詞転換動詞(<i>cage a bird</i> など)、日本語動詞の自他交替(「あがる」「あげる」など)、N-V 複合名詞(「昼寝」など)、V-V 複合動詞(「呼びかける」など)などです。意味に関しては、昨年の『語の意味論』の講義で取り上げたフレーム意味論(認知意味論に基づくもの)の考え方を採用します。</p>
<p>テキスト・参考文献</p>	<p>陳奕廷・松本曜『日本語語彙的複合動詞の意味と体系』(ひつじ書房) Booij, Geert. <i>Construction Morphology</i>. Oxford University Press</p>
<p>この課目で前提とされる知識など</p>	<p>言語学の入門程度の知識を前提とします。</p>
<p>プロフィール</p>	<p>国立国語研究所理論・対照研究領域教授 専門は、意味論、形態論、統語論、語用論、類型論、認知言語学。主著に <i>Complex predicates in Japanese</i> (CSLI Publications)、編著に『移動表現の類型論』(くろしお出版)などがある。</p>

時間:19:00-20:40(100分)

後期 2021年9月27日～全10回(祝祭日の講義はありません)

<p>月曜日</p>	<p>言語研究の全体像を知る 言語学概論</p> <p style="text-align: right;">長屋 尚典(ながや・なおのり)東京大学准教授 高橋 将一(たかはし・しょういち)青山学院大学教授 大堀 壽夫(おおほり・としお)慶應義塾大学教授 佐野 哲也(さの・てつや)明治学院大学文学部英文学科教授 川村 大(かわむら・ふとし)東京外国語大学教授 【言語学概論】 オンライン</p>
------------	--

	講義概要	<p>この講義では言語研究の5つの主要分野について、各分野の専門家が2回(2週)ずつリレー形式で解説を行います。「言語学概論」はこれまで半期の課目として、一人の講師がすべての分野をカバーする形で開講されてきました。今年度は前期と後期の二期に分けて開講し、合計20回の講義を計10名の講師が分担する形で、言語研究の各分野の考え方と言語研究の面白さを解説いたします。半期だけの履修も可能ですが、言語研究の全体像を理解するためにも両期とも受講されることをお勧めします。</p> <p>今期は言語類型論、生成文法、認知言語学、言語心理学、日本語文法理論の5分野について解説したいと思います。担当講師の大半は前期に各論の講義を担当しますので、これらの各論とペアにして受講されるとさらにそれぞれの分野を深く理解することができますようになります。単位取得を希望する人は、5名の講師が一題ずつ出すテーマから1つを選んでレポートを提出していただきます。</p>
	テキスト・参考文献	各講師が指定(もしくは配布)する。
	この課目で前提とされる知識など	ことばに関心のある人はどなたでも受講できます。言語学を一から学びたい方、言語研究の全体像をもう一度理解したい方、大学等で言語学概論をどのように教えたらいいか模索している方に特にお勧めの授業です。
	プロフィール	<p>大堀 壽夫 慶應義塾大学環境情報学部教授 Ph.D.(言語学)を1992年にUC Berkeleyより取得。主として意味論、機能的類型論(特に接続構造の類型と通時相)、談話分析、日本語、英語、東アジア諸語について研究。『認知言語学』(2002, 東京大学出版会)、「従属節の階層を再考する:南モデルの理論的基盤」(2014, 益岡隆志他編『日本語複文構文の研究』, ひつじ書房)、M. トマセロ編『認知・機能言語学』(共訳2011, 研究社)。</p> <p>佐野 哲也 明治学院大学文学部英文学科教授 言語獲得。 University of California, Los Angeles, Ph.D. in Linguistics 主要著作: “Remarks on theoretical accounts of Japanese children’s passive acquisition,” in <i>Generative Linguistics and Acquisition: Studies in Honor of Nina M. Hyams</i>, John Benjamins, 2013. など</p> <p>その他の講師は各講師の講義欄参照</p>
月曜日	語用能力をさまざまな側面からとらえてみよう 語用論入門	<p style="text-align: right;">松井 智子(まつい・ともこ) 東京学芸大学教授 【語用論】 オンライン</p>
	講義概要	語用論は、会話を中心とした日常的なコミュニケーションのメカニズムを研究する学問分野です。会話で使われる言葉の意味を解釈するとき、また会話の中で言葉になっていないメッセー

		<p>ジを汲み取るとき、どちらも相手の「意図」や「態度」といった、目には見えない心の状態を押し量ることが鍵になります。この講義では、コミュニケーションにおいて、相手の意図や態度を推測する能力を「語用能力」としてとらえます。そしてその働きや発達、障害について考察していきます。語用能力は言語能力とは区別されますが、両者には強い関係性があります。言語発達に遅れがある場合、語用能力の発達にもその影響が出る可能性があります。たとえばバイリンガル環境で育つ定型発達の子どもの深刻な言語の遅れがある場合、日常会話も年齢相応にはできないことがあります。その一方で、高機能の自閉スペクトラム症児のように、構造的な言語力は高くても、会話は非常に困難であるケースもあります。どちらの場合も、表面的には語用障害を持つ子どもに見えますが、その原因は大きく異なります。この講義ではさまざまなケースをとらえ、言語発達と語用能力との関係についても検討します。</p>
	テキスト・参考文献	松井智子 2013 「子どものうそ、大人の皮肉」岩波書店
	この課目で前提とされる知識など	特にありません。
	プロフィール	<p>東京学芸大学国際教育センター教授  ロンドン大学ユニバーシティカレッジ文学部言語学科博士課程修了(PhD)。  著書に Bridging and Relevance (John Benjamins, 2000, 市河賞)、『子どものうそ、大人の皮肉』(岩波書店 2013 年)、『ソーシャルブレインズ』(分担執筆、東京大学出版会、2009)、『ミス・コミュニケーション』(分担執筆、ナカニシヤ、2011)などがある。</p>
火曜日	言語変化のメカニズムと記録以前の言語の復元について考える 歴史比較言語学入門	<p style="text-align: right;">吉田 和彦(よしだ・かずひこ)  京都産業大学客員教授  【史的言語学】  オンライン</p>
	講義概要	<p>この授業では、言語の変化を明らかにするうえで有効ないくつかの方法論(文献資料の扱い方、音変化の基本的なメカニズム、比較方法、内的再建法、生成成分からのアプローチ、類推の原理)について解説したあと、その方法論を諸言語のデータに適用しながら、実際の分析を行います。この分析作業により、受講生のみなさんの問題発見能力と問題解決能力が涵養されます。オンラインの授業ですが、できるだけ対話の時間を多くとり、分析が正しい方向に向かうように助言します。分析結果そのものよりも、根拠に裏付けられた考え方を重視し、言語分析の面白さを体験します。主要なピックとして、つぎのようなものがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・言語は変化する</li> <li>・話し手のいない文献資料から、どのようにして言語情報を引き出すか</li> <li>・音変化のメカニズム</li> <li>・記録以前の言語の復元(1)——比較方法</li> </ul>



		<ul style="list-style-type: none"> <li>・記録以前の言語の復元(2)——内的再建法</li> <li>・類推の役割</li> <li>・生成文法からみた言語の変化</li> <li>・比較言語学の歴史とその今日的意義</li> </ul>
	テキスト・参考文献	教科書は特に使用せず、スライドをもちいて講義します。
	この課目で前提とされる知識など	言語学に関する一般的な基礎知識(特に音声学と音韻論)があることが望ましいです。史的言語学に関する予備知識は必要ではありません。時間に余裕があれば、吉田和彦『言葉を復元する』三省堂、『比較言語学の視点』大修館の1-4章を読んでおいてください。
	プロフィール	<p>京都産業大学外国学部客員教授 京都大学名誉教授。コーネル大学 Ph.D.(言語学)</p> <p>言葉にかかわる問題全般に興味がありますが、特に言葉の変化に興味を寄せています。印欧系諸言語は東は中央アジア、西はアイルランドにいたる広大な地域で話されていました。それらの言語が分岐する前の印欧祖語の再建および分派諸言語の後の変化という問題に取り組んでいます。そして紀元前二千年紀に遡る古い文献記録を持つヒッタイト語などの古代アナトリア諸語が、この問題の解明に向けて重要な鍵を担っているため、アナトリア諸語を中心に据えた比較言語学的研究を世界の研究者仲間と協働しながら進めています。みなさんの関心を広げるとともに、ことばの変化に関心がある方の研究テーマが実を結ぶように、ともに学び合いたいと思います。</p>
	『「する」と「なる」の言語学』とその周辺 — 共時的にも通時的にも 認知言語学Ⅱ	池上 嘉彦(いけがみ・よしひこ)東京大学名誉教授 【認知言語学】内容は通年講座を参照。
水曜日	日本語プロソディーの多様性と特徴を探る 日本語のプロソディー	窪菌 晴夫(くぼその・はるお) 国立国語研究所教授 【音韻論】 オンライン
	講義概要	この講義では語のプロソディー(アクセント)と文のプロソディー(イントネーション)を対象に、日本語の構造と特徴を一般言語学、対照言語学の観点から考察します。日本語は世界の言語の中でも「アクセントの宝庫」と言われるほど多様なアクセント体系を有しています。またイントネーションの特徴も方言間で大きな違いが見られ、同じ疑問文でも文末ピッチを上げる方言もあれば下げる方言もあります。人に呼びかける時の呼びかけイントネーションも方言間で違いが見られることが分かってきました。このような多様性は日本語の財産である一方で、他方ではコミュニケーションの障害ともなりうるものです。本講義では東京方言(標準語)だけでなく、近畿方言や鹿児島方言、長崎方言、甕島方言(鹿児島県の消滅危機方言)、小林方言(宮崎県)を射程に入れ、日本語方言のプロソディー体系・構造が見せる多様性を探りながら、その多様性を言語類型論の中に位置づけてみたいと思います。同時に、日本語方言の研究が世界の言語研究に貢献できる可能性を探ります。
	テキスト・参考文献	テキスト:『一般言語学から見た日本語のプロソディー』(窪菌晴夫著、くろしお出版、2021年)

	この課目で前提とされる知識など	言語学概論レベルの知識を前提とします。音韻論の基礎知識もあれば授業をより深く理解できますが必須ではありません。日本語の音声に関心のある人だけでなく他言語の音声や、音声以外の分野に関心のある人も歓迎します。
水曜日	プロフィール	国立国語研究所 理論・対照研究領域 教授 音韻論、音声学。1986年英国エジンバラ大学大学院(言語学)修了, Ph.D.(1988年)。一般言語学や言語類型論の視点から日本語の音韻構造と音韻構造の普遍性・多様性を研究している。主な著書に <i>The Organization of Japanese Prosody</i> (1993)、『語形成と音韻構造』(1995)、『一般言語学から見た日本語のプロトタイプ』(2021)(くろしお出版)、『日本語の音声』(1999)、『アクセントの法則』(2006)、『数字とことばの不思議な話』(2011)(岩波書店)、『通じない日本語』(2017, 平凡社)。
		話し言葉からの言語学 社会言語学 <p style="text-align: right;">嶋田 珠巳(しまだ・たまみ)          明海大学教授  <b>【社会言語学】</b>          オンライン</p>
	講義概要	友達と話すときの「タ語」、先生と話すときの「敬語」、地元で話すときの「方言」。ふだんの言葉からスタートすると、言語学はどのように展開できるでしょうか。今年度のテーマ「話し言葉からの言語学」。ここでいう「話し言葉」とは、ラングとパロールというときのパロールであり、いつ誰がどこで誰にという文脈と結びついた、発話を単位とした言葉のことで、インタクシオン、コミュニケーション、ディスコースなどから言語の諸側面を観察します。ダイクシスや情報構造など、発話を観察するために必要な導入をおこなったうえで、敬語、方言と標準語、複数言語使用、会話分析、言語使用とアイデンティティなどのトピックを取り上げ、社会言語学分野の、おもにスタイル(style)について理解を深めます。理論的には、パロールからの言語学はどのようなインパクトを言語学フロアに与えるかに関係。話し言葉(speech)から言語を考えるとときにはおのずとその言語コミュニティ(speech community)における「社会」と「言語」とのインターフェイスを見ていくこととなります。初めての方から研究の領域に足を踏み込んでいられる方を想定して、「話者の見える言語学」としての社会言語学の魅力に誘います。
	テキスト・参考文献	教科書は使わず、ハンドアウトを配布します。参考文献は適宜紹介します。
	この課目で前提とされる知識など	特にありません。教室でのディスカッションがあらたな知のきっかけになるかもしれません。
	プロフィール	明海大学外国語学部教授 社会言語学、言語接触、アイルランド英語。2007年京都大学大学院文学研究科行動文化学専攻言語学専修博士後期課程修了。博士(文学)。著書に、『英語という選択—アイルランドの今』(岩波書店 2016年)、共編著に『言語接触—英語化する日本語から考える「言語とはなにか」』(東京大学出版会 2019年)、『時間と言語』(三省堂 2021年)など。おもな論文として“Speakers’ awareness and the use of <i>do be</i> vs. <i>be after</i> in Hiberno-English”, <i>World Englishes</i> 35, 2016年。研究テーマとして「言語知識とその更新」など。
木曜日	生成文法理論を通して言語を考える 生成文法 I 高橋 将一(たかはし・しょういち)青山学院大学教授【生成文法 I】 内容は通年講座を参照。	

	<p>文とは何か:意味の単位か言語活動の単位か          日本語文法理論 I 尾上 圭介(おのえ・けいすけ 東京大学名誉教授【日本語文法理論】          内容は通年講座を参照。</p>	
<p>金曜日</p>	<p>「意味」の意味を掘り下げる          意味論の基礎</p> <p style="text-align: right;">酒井 智宏 (さかい・ともひろ)          早稲田大学教授  <b>【意味論】</b>          オンライン</p>	
	<p>講義概要</p>	<p>意味論は理論言語学の中で一番とつきやすい分野に見えて実は一番とつきにくい分野です。その理由の一つは、ただの「意味論」という分野が存在しないことです。存在するのは形式意味論、語彙意味論、認知意味論、etc.であって、「意味論」ではありません。いずれも意味という同一の対象を扱っているように見えながら、XX 意味論とYY 意味論では着眼点が大きく異なり、XX 意味論の想定を受け入れることが必ずしも YY 意味論の理解の助けにならないことがあります。この講義では、どの立場に立つにせよ、意味(論)について最低限心得ておきたい問題をじっくり考えてみましょう。</p> <p>私の担当する意味論は 2018-2019 年度に続いて三回目です。2018 年度は「意味は言語使用者の心の状態によって決定される」という意味の内在主義を批判的に検討し、2019 年度は「概念・思考は思考主体の内的状態によって決定される」という概念・思考の個体主義を批判的に検討しました。2021 年度は、内在主義・個体主義に関する論文を丁寧に読みながら、意味(論)の基礎を掘り下げてみたいと思います。継続して受講する方にとっても、今回から新たに受講する方にとっても、等しく有意義な講義となるように努めます。</p>
	<p>テキスト・参考文献</p>	<p>プリントを配布します。参考文献は、授業中に紹介します。</p>
	<p>この課目で前提とされる知識など</p>	<p>予備知識は必要ありません。</p>
	<p>プロフィール</p>	<p>早稲田大学文学学術院教授          意味論、語用論。          2003 年東京大学大学院総合文化研究科博士課程修了、博士（学術）          2004 年パリ第 8 大学大学院言語学専攻博士課程修了、Docteur en Sciences du Langage          主要著作:『正しく書いて読むための英文法用語事典』(分担執筆、朝倉書店、2019)『最新理論言語学用語事典』(分担執筆、朝倉書店、2017)、『理論言語学史』(分担執筆、開拓社、2017)</p>
	<p>スクリプトを使いこなして音声学を学ぶ          実験音声学</p> <p style="text-align: right;">北原 真冬 (きたはら・まふゆ)          上智大学外国語学部教授  <b>【実験言語学】</b>          オンライン</p>	

講義概要	音声分析ソフトウェアPraat を用いて実験音声学の基本を身につけ、自ら実験をデザインし、それを実施できるようになることを目指します。授業中に実習課題が多くあるため、PC とヘッドホンを用意していただくことが必須となります。産出と知覚の双方について様々な実験デザインの基本形を示し、それを実行・解析するために必要なスクリプトプログラミングの仕方を基礎から丁寧にお伝えします。
テキスト・参考文献	テキスト: 北原真冬・田嶋圭一・田中邦佳(2017)「音声学を学ぶ人のための Praat 入門」ひつじ書房
この課目で前提とされる知識など	PC の基本的な使い方(拡張子を表示できることや全角スペースを駆逐できること)
プロフィール	上智大学外国語学部教授 上智大学国際言語情報研究所音声学研究室長。専門は音声学・音韻論・認知科学。1997 年京都大学大学院文学研究科言語学専攻博士課程中退。2001 年インディアナ大学大学院博士課程修了。joint Ph.D. in Linguistics & Cognitive Science。著書は本講座のテキスト。

通年講座（前期と後期でセットの講座）

時間:19:00-20:40(100 分)

前期 2021 年 5 月 10 日～ 全 10 回

後期 2021 年 9 月 27 日～ 全 10 回(祝祭日の講義はありません)

火曜日	『「する」と「なる」の言語学』とその周辺 — 共時的にも通時的にも 認知言語学Ⅱ  池上 嘉彦(いけがみ・よしひこ) 東京大学名誉教授、昭和女子大学名誉教授 【認知言語学】
講義概要	外国語と多かれ少なかれ苦労してつき合った経験のある人なら、誰しもその反面、いつの間にか自然と身についた自分の母語とは、(勉強して多かれ少なかれ身につけた外国語と較べて)一体どういう言語なのかと改めて考えてみたくなるはず。『「する」と「なる」の言語学』と題された書物(大修館書店、1981)も、そのような問いかけから生まれたもの — エッセイ風の考察と言語学的な論考との中間あたりを念頭に置いての著作でした。変形文法一色に染まっていた時期には異端的な存在と見做されていたらしいですが、現在まで 18 刷を重ね、今では認知学的な先駆的試みと受けとめられているようです。昨年度半年間は、この書物の成立に関わるいくつかの動機づけについてお話をしました。本年度は、まず、その点についていくつかの補足をさせていただいた後、書物で提示されているさまざまな論点を言語研究の流れの中で、現時点から見た形で紹介・検討・評価させていただき、そしてその上で、聴講者の方々にもみずからの母語言語感覚に同じ問いかけをしてみただければと思っています。
テキスト・参考文献	「表現構造の比較 — <スル>的な言語と<ナル>的な言語」(国広哲弥編『日英語比較講座・第 4 巻・発想と表現』(pp. 82-110)研究社、1982)を pdf で共有。その他多くの関連文献から

		の引用をハットアウトとして配布。(別途添付資料を参照。)
	この課目で前提とされる知識など	日本語母語話者でなくても、日本語に特別な関心があり、そして(当然ですが)ある程度の習熟度のある人なら、歓迎です。認知言語学については、専門的な知識は必要なく、言語への深い関心があれば十分です。
	プロフィール	東京大学名誉教授、日本認知言語学会名誉会長 東京大学で英語英文学(B.A., M.A.), Yale 大学大学院で言語学(M.Phil., Ph.D.)を専攻。インディアナ大学、ミュンヘン大学、ベルリン自由大学、チュービンゲン大学、北京日本学研究中心、などで客員教授、ハンブルク大学、ロンドン大学、などで客員研究員。著書:『英詩の文法』(研究社)、『意味論』(大修館書店)、『「する」と「なる」の言語学』(大修館書店)、『ことばの詩学』(岩波書店)、『詩学と文化記号論』(講談社)、『記号論への招待』(岩波書店)、『<英文法>を考える』(筑摩書房)、『日本語と日本語論』(筑摩書房)、『自然と文化の記号論』(日本放送出版協会)、『英語の感覚・日本語の感覚』(筑摩書房)など。学術書、翻訳、論文、多数。
木曜日	生成文法理論を通して言語を考える 生成文法 I (入門)	高橋 将一(たかはし・しょういち) 青山学院大学教授 【生成文法入門】 オンライン
	講義概要	本講義では、下記のテキストを使用し、生成文法理論を基礎から学びます。生成文法理論における言語に対するアプローチ、分析方法、基本的概念、理論的道具立て、理論の構築方法などを取り上げていきます。また、テキスト内のエクササイズや自作の問題を解くことで、具体的な言語現象を実際に分析していきます。テキストの内容以外にも、受講者の興味・関心を考慮に入れ、なるべく幅広く言語現象を取り上げていきたいと思っています。
	テキスト・参考文献	Freidin, Robert. 2012. <i>Syntax: Basic Concepts and Applications</i> . Cambridge University Press.
	この課目で前提とされる知識など	言語学や生成文法理論についての知識がなくても理解できるように講義を行います。英語で書かれたテキストを読みますが、テキストの内容についての講義は日本語で行いますので、内容を把握した上で読むことができます。また、テキストの内容についてご不明な点がございましたら、講義中も質問を受け付けます。
	プロフィール	青山学院大学文学部英米文学科教授 統語論、意味論、統語論と意味論のインターフェイス。 2006 年マサチューセッツ工科大学大学院博士課程言語学・哲学科修了、Ph.D. 主要論文:The hidden side of clausal complements. <i>Natural Language &amp; Linguistic Theory</i> 28:343-380, More than two quantifiers. <i>Natural Language Semantics</i> 14:57-101 など。
木曜日	文とは何か:意味の単位か言語活動の単位か 日本語文法理論 I 二種の文成立論と文の種類	尾上 圭介(おのえ・けいすけ) 東京大学名誉教授 【日本語文法理論】 対面+オンライン
	講義概要	〇ことばが文になるために何が必要かという大問題をめぐって、二種類の考え方が提出

		<p>されました。</p> <p>山田孝雄(1908,1936)は、①文の材料たる諸観念と②それを結びつける統覚作用(精神の統一作用)があつてはじめて文は成立すると考え、時枝誠記(1941)は①客体的内容を②主体的把握が包み統一して文は成立すると考えました。それぞれの②が文を成立させる決め手と言えるもので、山田の②統覚作用は述語の陳述(述べあげ言い切ることに)に表れ、時枝の②は文末辞(助動詞、終助詞)の統一作用がそれを担うとされました。その時、後発の時枝は、山田の「陳述」は自分(時枝)の言う「文末辞の統一作用」がそれに当たるとしたので、当時の学界は山田の②、時枝の②を、山田の陳述、時枝の陳述と呼ぶようになりしました。ここに内容的に相当異なった二種の陳述論(=文成立論)が成立したことになります。○陳述とは何か、山田の陳述と時枝の陳述を統一するような視点はあり得ないか、述語を持たない文における文の成立はどのように説明されるべきか、時枝文末辞の意味はすべて主体的把握(=主観的意味?)だと言えるのか否かというようなことをめぐって、1950～1970年代の国語学の文法論の世界は沸き立ちました。この学史の現代的意義を考えます。</p>
	参考図書	尾上圭介『文法と意味 I』(くろしお出版、2001)
	前提とされる知識など	必要ない。新奇的な議論を受け止める柔軟な頭脳さえあれば。
	プロフィール	<p>東京大学名誉教授</p> <p>大阪市生まれ。東京大学大学院人文科学研究科修士課程修了(国語学)。博士(文学)。専攻は文法論、意味論、文法史、および「大阪のことばと文化」。著書に『文法と意味 I』(くろしお出版、2001)、『大阪ことば学』(岩波現代文庫、2010)、『朝倉日本語講座第6巻』(編著、朝倉書店、2004)、日本語文法学会編『日本語文法事典』(共編大修館書店、2014)など。</p>

理論言語学講座夏期集中

期間:認知言語学 I 2021年8月週末3日間

時間:1日目 10:00-17:00 2日目 10:00-17:00 3日目 10:00-17:10

日本語文法と一般言語理論 2021年8月週末3日間

時間:1日目 10:00-17:00 2日目 10:00-17:00 3日目 10:00-17:10

8月週末	<p>Langacker を読む:認知文法の基礎から最前線まで</p> <p>認知言語学 I</p> <p style="text-align: right;">西村 義樹(にしむら・よしき)</p> <p style="text-align: right;">東京大学教授</p> <p style="text-align: right;">【認知言語学入門】</p> <p style="text-align: right;">オンライン</p>
講義概要	<p>この講義では、「言語表現の担う意味とは何か」、「文法は意味とどのように関係しているのか」、「語彙と文法はいかなる関係にあるのか」、「そもそも文法(的な知識の単位)は何のためにあるのか」、「言語の使用を可能にする知識とはいかなるものなのか」等の言語学の根本問題に対する認知文法(cognitive grammar)の考え方を、この理論の創始者 Ronald W. Langacker の著作を深く正確に読み解くことを通して、多角的に検討します。予</p>

		想を大きく上回る反響をいただいた一昨年度の講義とタイトルは同じですが、その講義では扱えなかった最近の論文からもできるだけ多くの題材を選ぶことによって、この理論の基礎から最前線までをよりよく見渡せる構成にしたいと考えています。英語が専門でない人にも原典に真剣に取り組むことの意義と楽しさを十分に共有していただけるように努力します。
	テキスト・参考文献	講義で用いる(画面共有する)テキストはこちらで準備してあらかじめ受講者にお送りする予定です。基本的な参考文献のリストは開講前にお送りする予定です。それ以外の文献も講義中に適宜紹介します。
	この課目で前提とされる知識など	(認知文法を含む)認知言語学についての知識は前提としませんが、開講前に西村義樹・野矢茂樹著『言語学の教室:哲学者と学ぶ認知言語学』(中央公論新社)を通読されることをお勧めします。受講者には日本語で書かれた基本的な文献をいくつか開講前にお送りする予定です。
	プロフィール	<p>東京大学文学部(言語学研究室)教授          専門は認知言語学、意味論、日英語対照研究。          1989年東京大学大学院人文科学研究科博士課程(英語英米文学専攻)中退。          『構文と事象構造』(共著、研究社、1998)、『認知言語学 I :事象構造』(編著、東京大学出版会、2002)、『明解言語学辞典』(共編著、三省堂、2015)、『日英対照 文法と語彙への統合的アプローチ:生成文法・認知言語学と日本語学』(共編著、開拓社、2016)、『メンタル・コーパス:母語話者の頭の中には何があるのか』(共編訳、くろしお出版、2017)、『認知文法論 I』(編著、大修館書店、2018)、『慣用表現・変則的表現から見える英語の姿』(共編著、開拓社、2019)、『認知言語学を拓く』、『認知言語学を紡ぐ』(いずれも共編著、くろしお出版、2019)など。</p>
8月週末	日本語の具体的な言語事実の観察、記述から、理論的な説明を目指して 日本語文法と一般言語理論	<p style="text-align: right;">三宅 知宏(みやけ・ともひろ)          大阪大学教授  <b>【言語学特殊講義】</b>          対面形式+オンライン講義を併用予定</p>
	講義概要	<p>本講義は、普遍的な一般言語理論を視野に入れながら、個別言語としての日本語について、特に「文法」(形態論、統語論、意味論、語用論との接点を含む)の分野を中心に、議論します。本講義が対象とするのは、日本語の「文法」に関して、①一般言語理論研究を行う上での基礎的な知識を得たい方、②専門的な日本語研究を進める上での知識を得たい方、③日本語教育を行う上での知識を得たい方、④日本語(言語)に知的興味がある方、です。</p> <p>今年度は、日本語において「文法構文」を形成していると考えられる言語現象を複数、観察することを通して、日本語の文法の基礎的事項とその理論的展開について検討する予定です。いわゆる「補助動詞」を含む構文が中心的に取り上げられることとなりますが、それに限定はされません。</p> <p>なお、2018年度、2019年度に引き続いての開講になりますが、講義の内容は異なりますので、今年度はじめての受講、過年度からの連続の受講のいずれでも、問題はありません。</p>
	テキスト・参考文献	テキストは使用せず、適宜、プリントを配布します。また、参考文献は講義中に紹介します。

	この課目で前提とされる知識など	本講義は,受講にあたっての特別な知識は必要としません
	プロフィール	<p>大阪大学大学院文学研究科 教授</p> <p>1997 年大阪大学大学院文学研究科博士後期課程退学.博士(文学)。</p> <p>専門は,日本語学/言語学。</p> <p>主要な業績として、『日本語研究のインターフェイス』(くろしお出版 2011),『日本語と他言語』(神奈川新聞社 2007),『語彙論的統語論の新展開』(共編著 くろしお出版 2017)等。</p>